



2018.3.5

No.136

【発 行】秋田県PTA連合会
【事務局】秋田市山王中島町1番1号 秋田県生涯学習センター内
TEL(018)864-8975 FAX(018)824-7935
E-mail : pta-akita@helen.ocn.ne.jp
http://www.pta-akita.com

PTA あきた

～みんなで育てる 秋田の子ども～

平成29年度 みんなで育てる 秋田ふれあい事業から



大館市立北陽中学校
大沢しのぶさん講演&演奏会
嘉手納中 交流事業



仙北市立中川小学校

三省レク

「三世代交流グランドゴルフ」
「地域交流昼食会」



由利本荘市立鳥海中学校
小中合同学校祭「飛鳥祭」



教育懇談会

1月26日(金)、秋田県教育委員会からご出席頂き「教育懇談会」を行いました。県教育委員会からは、米田進教育長、佐藤有正義務教育課長、沢屋隆世生涯学習課長のほか、各課関係職員の方々から出席をいただきました。

米田教育長からは、「本県の子どもたちは、学力あるいは体力などの面で優れた結果を示し、各方面から大変評価されている。今後も学力向上をめざして少人数学習の実施やキャリア教育のさらなる充実に努めていきたい。」

また、今年9月には「日本PTA東北ブロック研究大会秋田大会」が秋田市で開催されると聞いている。第50回の節目となる大会でもある。秋田県が取り組んでいる、様々な素晴らしいPTA活動を、東北各県の皆さんに紹介するよい機会になればと考えている。」とお話がありました。



家庭教育支援チームについて

Q 家庭教育支援チームの取り組みが秋田県でも行われているようですが、家庭教育支援チームはどのような取り組みなのかお伺いしたい。また、今後の方向性、そしてPTAはどのように家庭教育支援チームに関わっていくのか、どのような役割が必要か教えていただきたいと思えます。

A 家庭教育支援チームは、身近に相談できる相手を見つけることが難しくなったり、ネット上にたくさんの方があふれ、どれを信じていいかわからなくなったりするなど、悩みや不安を抱えている親を支援するための取り組みです。

これは秋田県でとったデータですが、家庭教育に対して「悩みや不安はありませんか」という質問に71%が「ある」と答えています。その中身は、一番は勉強や進学、そのほかさまざまな悩みを持っていることがうかがわれました。テレビ・ゲーム・ネット等メディアとの付き合い方も親として非常に悩んでいるようです。

また、「家庭教育にどのような支援が必要だと思いますか」という問いに対して、①家庭教育の知識を習得できる機会を提供する。②地域の人々が親しくなれる機会を作る。③身近に相談できる人材を確保する。の3つの回答が多くありました。

家庭教育支援チームは、実際にどういことをするのかといえますと、まず基本的なコンセプトとしては全ての親が家庭教育を安心して行

うことが出来るよう、悩みの一次受け止め役となることです。自分たちで全て解決するのではなく、聞いてあげたり、本当に困っている人は福祉の方へ繋いだりすることも大切な役割であります。

PTAの関わりについては、市町村と一緒に出来ることがあれば、PTAの行事に家庭教育支援チームも一緒に参加させ、巻き込んでいただけたらと思っています。市町村に身近に相談できる「家庭教育支援チーム」があるということを知っていただいて、周知してもらえたらと思っています。

Q 一次受けとめということと支援チームがあるとのことですが、悩みのすくい上げということだと思います。解決までは求めないということですが、相談する方は、解決がないとなれば話しにくいのと、相談されるチーム(例えばPTA)の方の責任の負担というのはいかがでしょうか。

A 基本的なスキルなどは、研修を行い、きちんと学んでもらいます。ただ、非常に深刻な問題もあります。家庭教育支援チームにそこまでの解決を求めるとは難しくなってくるので、解決できない場合は、解決できる人に繋ぐというのが大きな役割になりますので、どのような方に繋いだらいいかという対処の研修を行っています。

発達障害に関する取り組みについて

Q 不登校やいじめ(いじめられる側)などは多少ですが、発達障害が関係していると言うことを聞かれます。

文部科学省の2012年の調査によると、通常学級に在籍する児童・生徒の中で発達障害の特徴を示す子どもは全体の約6.5%という結果だそうです。

今後、発達障害に関してPTAとしても意識と知識が必要かと思えます。秋田県教育委員会の取り組みはどのようになっているのでしょうか。

A 発達障害の子どもたちは、友達とうまくコミュニケーションがとれなかったり、忘れ物が多かったり、学習場面で先生の話がうまく聞けなかったり、それぞれの障害の中で苦手な部分があるという特性があつて、その子どもたちの気持ちを大切にしなければいけないと思っております。

発達障害の原因はまだよくわかっていませんが、現在は脳機能の障害と考えられていて、小さい頃からその症状が現れると言われてます。また、早い時期から周囲の理解が得られ、能力を伸ばすための療育等の必要な支援や環境の調整が行われることが大切であるとされています。

特別な支援を必要とする子どもたちは、特別支援学級や特別支援学校だけではなく、通常の学級にも在籍しており、特別支援教育支援員を配置している学校もあります。

県教育委員会では、特別支援教育校内支援体制ガイドラインを発行

し、個別的な対応だけではなく、学校全体で支援を必要とする子どもたちに対応していくことを進めています。

秋田県ではこの校内委員会と特別支援教育コーディネーター、個別の支援計画・指導計画を全ての小・中・高等学校で設置、指名、作成してもらうことで、何年も前から取り組んでいます。

最近では、PTAの研修の中で、発達障害について研修してみたいという要望があつて、それに特別支援の先生が出向いていくというケースもあります。沢山の一般の方からも理解をしていただくということがこれからの発達障害の方への支援ということに繋がってくると思っています。

Q 子どもが障害を持っているということを判断するといいますが、親と子どもに対して障害がありますよと言うのは誰がするのですか。そしてどのタイミングでお伝えするのか教えていただきたいと思えます。

A とても難しいです。みんなと違う行動がありますよ、言葉が覚えにくいですよ、集中して話を聞くことが難しいですよ、と伝えます。ただ、それを対象のお子さんの保護者の方が心配だと思って、病院に行つてもらうということになればそこで診断がつくと思います。一番のきっかけは小学校に上がる段階ですね。全ての市町村の教育委員会で就学時健康相談があり、そこで気づきがあり、専門機関から具体的な特性を知ることがあります。

道徳の教科化について

Q 来年度から道徳の教科化が始まります。道徳の教科化について、教えていただきたいと思えます。

の様子を、文章で評価していきましょうということです。

A 道徳の教科化の大きなきっかけになったのは、みなさんご存じのようにいじめによる自殺が大きな社会現象になったことによります。いじめの防止に大きな役割を果たしていた道徳教育を振り返ったとき、道徳の授業がいじめの問題を取り扱ってもこれまでは読み物の登場人物の心情を想像するだけで授業が終わっていて、現実のいじめの問題に対応できていなかったのではないかと、という反省が出されました。こうしたことをきっかけに、道徳を特別の教科にして、授業の中で「あなたならどうするか」ということを真っ正面から問うこと、それから「考え、議論する道徳」へと変えていくこと、という転換がなされるようになりました。小学校では平成30年、中学校では平成31年から教科化となりますが、一番の大きなねらいは道徳の時間を量的な確保、簡単に言うと、週1時間、年間35時間、きちんとやりましょうということです。

それからもう一つは、質的転換。今まで登場人物の気持ちを想像することが主流だった道徳の時間を変えていくこと。「あなたならどうするか」ということを、具体的な場面などを想像して現実と向き合うような授業をやっていくということです。

教科化になるということで、一つ目の改正のポイントとしては、教科書の導入です。しかし、教科書を必ず35時間使いなさいというわけではありません。地域の素材であったり、学校独自の素材も有効に活用することであります。二つ目は、いじめ問題の対応を、一層踏まえた体系的なものに改善する。三つ目、問題解決的な学習や体験的な学習などを取り入れていくということです。四つ目は、児童生徒の道徳科に関わる成長

Q 道徳を教科化にするにあたって、先生、小学校の場合は担任の先生になると思うのですが、中学校の場合はその専門の先生がつくということでしょうか。

A 道徳の授業は基本的に学級担任が行うこととなっています。しかし学級担任だけでなく教頭先生、校長先生に時には授業をしてもらうとか、地域の方にも授業に協力していただく、ということも考えられます。

Q 道徳って答えがないと思います。いろんな人のいろいろな考えがあつて何が正解なのかというのがわからないと思います。そうした時に子どもたちは教えてくれる先生の答えというのは、全ての子どもの考えにOKを出すのか、落とすところはどこになるのかと疑問に思いました。

A 確かに道徳の答えというのは、答えは一つではないというのがまさにその通りだと思います。授業においてはいろいろな方のいろいろな価値観にふれることで、子どもたちが価値観を深めていくものです。ただ、著しく違う、その考え方はダメという場合もありますので、そこは授業を行っている、学級担任としてしっかりと指導していくことが必要だと思います。

郡市 PTA だより

かづの

●地域・家庭・学校が手を携えて

本会で最も大きな事業が「かづのPTA活動を考える会」です。今年度は、11月25日に開催しました。今回は例年と趣向を変え、地域の伝統芸能の発表と鷹巣中学校養護教諭藤嶋浩子先生の講演を行いました。伝統芸能発表では、八幡平地区に伝わる「水沢盆踊り太鼓」と「谷内先祓舞」の躍動感あふれるステージを見せていただきました。地域の伝統を受け継ぐ子どもたちの発奮とした姿から元気をもらいました。また講演は、昨年度県PTA研究大会大館北秋田大会で好評であった藤嶋浩子先生のお話を鹿角の地でもと、企画したものです。子どもたちの体と心を育む、家庭教育の果たす役割の大きさについて考えさせられました。参加した皆さんからも「たいへん有意義な会でした。」と感想をいただきました。これからも、子どもたち



鹿角のPTA活動を考える会

の健やかな成長を願い、地域・家庭・学校が手を携え進んでいけるよう活動の充実を図っていききたいと思いません。

大館北秋田

●熱をもって接すれば・・・

10月14日(土)に大館市立第一中学校を会場として、「大館・北秋田PTA連合会研修会」を開催しました。各学校の学習発表会や地域行事等と重



大館・北秋田 PTA 連合会研修会

なったことで、例年より参加人数が少なくなりましたが、会員や地域住民など約150人が参加しました。

開会行事後に表彰を行いました。これまで各地区Pや単Pの活動に御尽力された34人の会員に表彰状が贈られ、参加者全員で御功労を讃えました。

後半は、元プロボクサーで現在「こころの青空基金」を主宰する、坂本博之氏の講演でした。自身が過ごした児童養護施設の生活、ボクシングとの出会い、世界タイトル挑戦、児童養護施設の子どものたちとの交流など、情に溢れ、強い信念をもった坂本氏の思いがストレートに伝わってきました。「熱をもって接すれば、熱をもって返ってくる。」ボクシングや子どもたちとのふれあいから学んだ坂本氏の言葉に参加者の心も熱くなりました。

能代山本

●デコチョコづくりで歓声が！

今年度は来年度の東北PTA秋田大会に向けて、日本PTA仙台大会や県PTA由利本荘大会に本都市から合計26人の会員が参加し、大会運営の様子を観察したり講演・協議等を通じて研修したりしました。仙台や本荘での夜の情報交換会の盛り上がり、東北PTA秋田大会の成功を確信しました。

母親委員会研修会では、昨年度と同様、手軽にできるおやつ作りを行いました。事務局校である能代一中を会場に、同校の保護者が講師になって、28名の参加者が「デコチョコ」作りを行いました。ミッキーマウスの下書きにチョコペンとホワイトチョコを使って、デコレーション。気温の低い廊下でチョコを固まらせ、色付けされたミッキーのデコチョコに歓声が上がりました。参加者からは「今年のクリスマスは子どもと一緒にデコチョコ作りに挑戦します」という声が聞かれました。



潟上南秋田

●足裏の感覚を

今年度のPTA連合会研修会は、11月25日(土)、井川町立井川小学校を会場に、バレトンソールシンセシスインストラクターの猿田先生をお招きして開催しました。約40名の参加者に向けて、軽快な音楽のもとテンポ良く様々な動きを指導していただきました。この「バレトン」というのは、ニューヨーク発祥で、バレエ、フィットネス、ヨガの動きをバランス良く組み合わせた新感覚のエクササイズです。シンプルな動きですがメリハリがあり、代謝アップやストレス解消に効果があるとされています。裸足で行ったエクササイズだったので、足裏の感覚を目覚めさせ、バランス感覚や柔軟性が向上したように感じました。

この研修会が、自分の身体を見つめ直したり、運動へ取り組むきっかけ作りになればと思います。毎日、少しずつでも継続して運動できればより健康的な生活ができることと実感することができた研修会でした。



男鹿市

●一人一人の子どもが輝くために

今年度の研修会は、「一人一人の子どもが輝くために～これからの特別支援教育が目指すもの～」をテーマに、秋田県立栗田支援学校 教育専門監 新目敏子氏を講師にお迎えして行いました。「みんなが主役！みんなが支援！～特別支援教育の理解と支援～」という演題で60分間講演をしていただきました

障害のある者となない者が共に学ぶ仕組みのインクルーシブ教育システムの構築や通常クラスの子どもたちの困り感の実態や具体的な対応などについて、わかりやすく、丁寧に話していただきました。参加者からは、「普段、気になっていて聞きにくい内容を取り上げていただき、大変勉強になりました。自分の子どもたちは、もちろんですが地域の子どもたちも社会によりよく参画していけるよう、今日の講演で得られた内容について話し合っていきたいです。」等、多くの感想が寄せられ有意義な研修会になりました。



秋田市

●「一円玉」に寄せる思い

秋田市PTA連合会では、4つ専門部がそれぞれ特色のある活動を実施しております。

中でも生活安全部では、様々な環境にある子どもたちと同じ時代を生きる仲間として助け合い、友情を深め、そして一円玉を大切に持つ人間に育つことを目的に「一円玉福祉募金運動」を実施しております。

募金収集期間中は各学校で「一円玉福祉募金運動シール」を空き瓶等の容器に貼って各教室に設置し、子どもたちが直接容器に一円玉を入れられるようにします。寄せられた募金は、秋田市PTA連合会がとりまとめ、二箇所の児童養護施設と、社会福祉協議会を通して交通遺児に贈呈します。

募金活動に協力するため、お小遣いや買い物のおつりなどから一円玉を募金用に寄せたり、中学校では生徒会活動の一環として集計など行ったりしています。

「一円玉福祉募金運動」は今年度で第38回目を迎え、これまでに合計36,292,601円の善意の募金が役立てられました。

募金をとおして、一円玉の大切さを理解するとともに、助け合うことの優しい心が育つことを祈っております。



仙北市

●PTA連合会研修会

2月24日(土)に、仙北市角館グランデールガーデンを会場に市P連研修会を開催しました。

前半は臨床心理士で、秋田県スクールカウンセラーを勤められている濱田拓先生をお招きし、「子どもの能力や強みを伸ばすために」と題した講話をいただき、子どもへの関わり方やアスリート、著名人の生活歴や保護者との家族関係から、心理学的な成功の秘訣などについてお話しいただきました。

後半は、「我が家のしつけ」「我が家の思春期の戦い方」「我が家の食卓」の3つのメニューでワールドカフェを行い、自由な会話を通して、楽しみながら活発な意見交換がなされました。

参加者からは、講話を聞いて「子どもへの関わり方について大変参考になった」「子どもを全面的に肯定し信じ続ける親でありたい」など、また、ワールドカフェでは、「我が家を見直す機会になった」「さまざまな意見が聞けて新鮮で楽しかった」「気楽に参加でき学校のPTA懇談でも取り入れたい」などという感想が寄せられ、有意義な研修会となりました。



大仙市

●みんなの力が必要なのです。

例年行われている市PTAの研修会を、今年度は市教育委員会の事業ともタイアップして実施しました。

一つは、国立教育政策研究所指定「大曲南中学校ESD公開授業研究会」に参加したこと。二つ目は、「心のバリアフリー」と題した市教育委員会主催の講演会に参加し、終了後情報交換会をもったことです。さらに三つ目として、大森山動物園園長様を講師に迎え、「はじまりは親と子の絆から～動物の子育てに教育の原点を探る～」と題した講演会を行いました。いずれの機会も単独では出会えない貴重なお話にふれることができ、参加した方々の心に染みるものでした。

「何をどのように計画して行かうか」「それをどう運営するか」大変な面もありますが、地域の子供たちの成長のためにPTA関係者や市の方々が力を合わせたり、その力を高めたりしていくことの大切さを感じる一年でした。



由利本荘市

●秋田県PTA研究大会 由利本荘大会

本PTA連合会の今年1番の事業はなんといっても県PTA研究大会を本市で開催したことである。鈴木勉由利本荘市PTA連合会会長の下、実行委員会を組織し、今年度の早い時期から準備にあたってきた。今回は「主体的に参加するPTA研究大会」にしたいという思いからワールドカフェという熟議をメインにした。とはいえ、会員のほとんどがこれまで実践したこともなくイメージもつかめなかったために本当にできるのか不安のスタートであった。企画委員会を3回、実行委員会を3回、ファシリテーター研修会を2回開き、市内全てのPTAからの参加をいただいて、いつしか一体感のある研究大会が創り上げられたように記憶している。幸い、県内各地から参加して下さったPTA会員の皆様や秋田県PTA連合会の役員の皆様からもご好評をいただく研究集会になったと思う。



美郷町

●親力アップ講座

11月美郷町教育委員会と美郷町PTA連合会の共催で「親力アップ講演会」を開催した。講師は資生堂顧問の関根近子氏で、「プラス思考の考え方～親の元気は子供の元気～」という演題で、子育てや親子のふれあいについてご講演いただきました。

子どもの不安や消極性、弱気、やる気のなさなどのマイナス思考は、親の行動や考え方が大きく影響するということが、親が不平不満や後ろ向きな発言などネガティブな言動ばかりとっていたら、子どもも似たような思考になりかねず、様々なトラブルを生み出してしまいかねないという内容のお話でした。

やはり、子は親の鏡。子どもの成長を正しく導くのは親であるということ講演に参加したほとんどの親が強く認識した講演会となりました。



横手市

●女だから、男だからもう古い？笑顔の家庭を作る3つの方法

11月25日、平鹿生涯学習センターを会場に、「平成29年度横手市PTA連合会研究集会、ははおや・ちちおや研修会2017」を開催しました。

当日はあいにくの雪模様でしたが、ご来賓と市内各小・中学校のPTA会員と日本女性会議会員の約160名の参加者を得て、日本女性会議参画人材のステップアップ事業実行委員会との共催で講演会・パネルディスカッションを開催しました。

講師には、1級家事セラピストの桑井優子氏をお招きし、「女だから、男だからもう古い？笑顔の家庭を作る3つの方法」という演題で、家庭内暴力児を預かって育てて分かったことやご自身のお子様3人を育てたご経験に基づいたお話で、大変納得させられるお話でした。参加者が、子どもがいる今も、夫婦二人だけになった将来も、笑顔の家庭を作るコツを知るよい機会となりました。



にかほ市

●にかほ市PTA講演会・マジックショー

今年度のかほ市PTA連合会では参加者の皆さん・子ども達に楽しんでいただきたいとの実行委員の皆さんの思い形にすべく、県内をはじめ、世界で活躍するブラボー中谷氏講師にお迎えし、「何事もどうせやるならきげんよく」の演題で講演会&マジックショーとして開催しました。

前半はブラボー中谷さんがマジックを志したきっかけとなる、空手の試合での複雑骨折と入院生活で出会った小児科のこども達との話から始まりました。元気づけようと披露した手品でこども達が見せてくれた笑顔に、逆に自分が元気づけられエピソードに感動しました。

後半はこども達・講演会参加者を巻き込んだの楽しい楽しいマジックショーの始まりです。演題通り、自分がきげんよくマジックをしていなければ、人々を笑顔にする事は出来ないことを体現してくれました。

人として本当に素晴らしい方だからこそ、みんなを笑顔にする事が出来ると感じる講演会・マジックショーとなりました。



湯沢雄勝

●子どもの健康を支える足

9月2日(土)羽後町PTA連合会と共催で、羽後町文化交流施設「美里音」において教育講演会を開催しました。冒頭、羽後町長安藤豊様、南教育事務所雄勝出張所長鈴木康様よりご挨拶をいただき、来場した200名を超えるPTA会員に温かいエールを送っていただきました。

その後『足元から考えよう子どもたちの健康づくり』と題して、日本教育シューズ協議会常務理事の安恵照芳様が講演をしてくださいました。子どもの健康と言えば、食生活、生活習慣などが思い浮かぶわけですが、意外にも靴が大切であることを学びました。「足に合っていない靴をはいていると足指の変形や痛み、かかとの痛み、膝の痛み、腰痛、肩こりなどを引き起こします。靴は足を保護し足の機能を高める役割があります。靴の選択が適切でないと、足だけでなく全身の健康障害を起こす場合があります。」というような豊富なデータに裏付けられたお話を大変興味深く拝聴しました。



メモリアルページ

今年度をもってPTA活動の区切り(閉校)となる学校があります。

- ①創立年月日
- ②児童・生徒数
- ③PTA会長名
- ④校歌

井川町立井川小学校



①昭和46年4月1日 ②177名 ③工藤 智経

作詞 鎌田 宏
作曲 菊地 三男

青さわやかな 大空に 姿やさしい 森山よ
田園はるか 男鹿山々も
みどりの風に すきとおる
われら井川の 少年少女
心きよらに 心きよらに育つのだ

松美しい 池水に 遊ぶこがもの 群いくつ
学び會高く 丘にならびて
楽しい日々よ わが友よ
われら井川の 少年少女
心ゆたかに 心ゆたかにげむのだ

井川町立井川中学校



①昭和22年4月1日 ②119名 ③白川 雅之

作詞 加藤 裕
作曲 石井 五郎

清明の夜あけ
光さす 出羽の山なみ
豊かなる世の 喜び満ちて
つきぬ井川の おしえをくみ
伸びゆく われら希望をすてじ

青雲の志
眉あげて ともに語らい
美田にみゆる 父祖の恵みに
ふかき井川の おしえをくみ
楽しき われら 友情さえじ

にかほ市立上郷小学校



①明治8年10月15日 ②61名 ③渡辺 淳子

作詞 土門 退蔵
作曲 露木 次男

朝夕仰ぐ 鳥海の
お山に今日も ちかいましよう
みんなお山の そのように
大きな望み 胸にして
勉強しますと ちかいましよう
伸よこよしの わが学校

沃野を開く 奈曾の川
名にうたわれし 奈曾の池
流れつさない そのように
みんな元気に ほがらかに
手に手をとって つとめしよう
強い子 よい子の わが学校

にかほ市立上浜小学校



①明治7年7月 ②62名 ③荒生 昇

作詞 黒沢 三郎
作曲 西崎嘉太郎

あおく青空 さわやかに
そびえる山よ 鳥海よ
みんな仲よく 手をとって
まなびの園を ひらきます
われら上浜小学校

平和ほほえむ ふるさとの
みどりの松よ そよ風よ
心ゆたかに はぐくんで
まことの道を すすみます
われら上浜小学校

横手市立山内中学校



①昭和22年5月2日 ②58名 ③藤田 信明

作詞 渡部 八郎
作曲 山崎常四郎

流れせせらぐ 山峡に
鶴の姿を かたどりて
学ぶひとつの 道程に
真理の光 求めつつ
生命栄えあれ 永久に

平成30年度 **「みんなで育てる 秋田ふれあい事業」**の募集について


平成30年度もPTA行事、PTA内の活動グループが主催する子どもを含めた事業に上限3万円の助成を30団体に行います。応募要項は、秋田県PTA連合会のHP—お知らせをご覧ください。

平成30年度 **開催研究大会のお知らせ**

第66回日本PTA全国研究大会新潟大会
大会主題 教育は未来を拓く 新潟発 米百俵の精神！
～新潟に集い、語ろう 未来のひとづくり～
開催日 8月24日(金)～25日(土)
会場 アオーレ長岡ほか


第50回日本PTA東北ブロック研究大会秋田大会
大会主題 つながろう東北 深めよう絆 美の国秋田で学びあおう
～未来を拓く子どもたちのために～
開催日 9月15日(土)～16日(日)
会場 秋田市文化会館ほか

※大会ホームページ
URL: <http://www.akita-pta.jp/50tohoku/>



PTA安全互助事業

PTAの保険は、学校管理課外のケガや登下校中のケガ、PTA行事でのケガ、賠償事故の補償をしています。29年度は県内99.1%の学校が加入されました。30年度の補償内容・加入要項を3月に各学校へお送りいたします。新年度のご加入をよろしく願っています。



日新火災



お客さまひとりひとりと、顔のみえるおつきあい。

日新火災は、ひとりひとりのお客さまとしっかり向きあう「顔のみえるおつきあい」で、お客さまのご期待にお応えしたいと考えています。

お客さまに最も身近で誠実な損保を目指して

秋田県PTA安全互助会補償制度取扱会社
日新火災海上保険株式会社
秋田サービス支店 〒010-0001 秋田市中通4-5-2-4F TEL.018-837-5255